



はあもにい

リニューアルした「外来棟3階病棟」 ～明るく広い病棟で、一層良いケアを 提供できるようになりました～



研究所附属病院 副看護部長 森安 香緒里

▲外来棟3階病棟のスタッフ

2015年6月に入院棟が完成し早5年…唯一古いまま残されていた外来棟の4階がついに10月1日に新しい病棟に引っ越し、「外来棟3階病棟（障害者施設病棟）」と名称を変更しました。

これまで、狭い病室で患者さんやご家族に大変ご不便をお掛けしてきました。またスタッフは、窓側の患者さんの移動時には手前の患者さんのベッドを移動しなくてはならず、何度も切り返しをしながら病棟を出る労力、PHSに連動していないナースコール、水道は手でひねるタイプで水しか出ない、いつ壊れるか分からないエアコン…、新しい入院棟を羨ましく思いながら働いてきました。

新しい外来棟3階は、旧新館3階病棟と本館3階病棟の約半分を改修したとても広い病棟にな

り、個室2部屋、2床室7部屋、4床室6部屋の計40床と現在より2床増床となります。

大きな窓がたくさんあるので明るく、1床当たりの病室面積は2床室で13.2㎡と14.59㎡、4床室で8.63㎡～10.57㎡となり、患者さんに快適に過ごしていただけることと思います。

またバイプロ浴は、これまでは上の階に移動していましたが、同じ階に設置され導線もスムーズになります。スタッフステーションやケア準備室なども機能的に配置し、モニタリングルーム（観察室）も2室を整えました。スタッフの業務改善とともに、患者さんに更に安全・安心をお届けしたいと思っています。

設計施工業者とは、今年の1月より建築会議を重ねてきました。しばらく使用していない病棟での改修工事となりましたが、古い図面を引っ張り出し、不具合が出ないように慎重に検討を重ねていただきました。また、病棟課長や関係スタッフも様々な設備の選定や配置、壁や床の色、家具の選定など多くの検討事項があり、本当に大変だったことと思います。

無事に完成を迎えることができ、新たな場所で働けることにワクワクしながら、患者さんに一層良いケアを提供し、またしっかり病床稼働を上げるよう努めていきます。



▲明るく広くなった病棟

防災の日の非常食提供と 災害時想定訓練を行いました

しげい病院 栄養管理部 主任 近藤 美知子

栄養管理部では災害時に電気・ガス・水などのライフラインが使用できないことを想定し、3日分の災害用非常食を備蓄しています。

今年の9月1日の防災の日には、その中から白飯（水を加えるだけで火を使わず炊けるご飯）と金平ごぼう（レトルト食品）を献立の一部として、メッセージカードを添えてお出ししました。通常の食事の美味しさに勝るものではありませんが、防災の日に非常食を提供することで、災害時の食事の備えができていることを患者さんに知っていただけること、賞味・消費期限の近づいた食品を破



▲メッセージカードを添え、非常食を献立の一部としてご提供



▲災害時想定訓練の様子

棄せず使用し無駄にならないこと、職員も非常食の取り扱いを実際に確認できることなど様々なメリットがあります。

また、防災の日の非常食提供と共に毎年の恒例行事となっているのが、部署内での「災害時想定訓練」です。

震度5強の地震が発生したと想定し、「大丈夫ですか？調理器具に電源が入っていたら切ってください」、「Aさん、水道の点検をお願いします。水が出るようなら水質検査をお願いします。」など、具体的な内容で想定訓練は行なわれました。

災害はいつ起こるか分からず、突然の発生時は誰もがパニック状態に陥ることが考えられます。その状況で少しでも速やかに対応できるために、今回のような想定訓練は重要だと感じています。

災害時であっても安心・安全な食事を提供することができるよう、今後もこの活動は継続していきたいと思います。

しげい病院の図書室に高精細スキャナーが設置されました！

しげい病院 IT推進・情報管理室 難波 辰晃

最近では本のデジタル化が進み、タブレットなどの電子機器で読まれる方が増えております。本の内容を電子化して、さまざまな場面で使えるように、このたび図書室に高精細スキャナーが設置されました。

カメラの位置がオーバーヘッドタイプとなり、カメラの下に本やスキャンしたいものを置くことで、傷めることなくスキャンすることができます。

スキャナーの主な特徴として、①本の見開きを自動的に補正することが可能 ②ページをめくると自動的にスキャン ③OCR機能を使うことでWordなどのテキストファイルに変換が可能 などが、他にも多彩な機能を有しております。

学会発表などのスライドに使う画像や引用文などをスキャンして、スライドに付け加えることもできます。

図書室のパソコンとつながっておりますので、ぜひお気軽に新しいスキャナーを使ってみてください。



▲高精細スキャナー

今年も開催できました！ 夏の科学実験教室

研究所附属病院 小児療育部 副室長 新 藍

8月14日(金)と17日(月)に、「第7回 夏の科学実験教室」を開催しました。小児療育センターを利用されている小学生以上の方を対象に、毎年、夏休みシーズンに重井医学研究所と小児療育部のコラボ企画として実施しているもので、早7回目となりました(去年は冬にも開催し、トータルでは8回となっています)。今年は新型コロナウイルスの影響で子供たちの夏休みが短くなり、また密な環境を避ける必要もありましたが、万全の対策(開催日の分散・人数制限・消毒の徹底など)の上で、無事開催することができました。

実験内容はお馴染みとなった「野菜からDNAを取り出そう!」です。参加者は14日が2名、17日が3名といつもの3分の1程度の人数でした。だからこそ、いつもより丁寧に教えることができ、かつゆっくり見守ることができました。

前半は、玉ねぎやブロッコリーを切る、刻む、すりつぶすといった地道な作業が続きます。そんな

作業に耐えられなくなる子もいましたが、少人数なのでいつもは見学だけのご家族にも手伝ってもらい、全6工程のうちなんとか最も重要な第2工程までを時間をかけて行ないました。そこからDNAを取り出すまではあっという間。白くふわふわした物体(DNA)を見つけた時の「うわ〜すご〜い!」という声は忘れられません。いつもは子供たちだけに渡される試験管ですが、今年はお家族分も研究所が用意。大人も子供も関係



なくDNAを取り出す瞬間の感動を味わえました。コロナ禍ならではの濃密な体験でした。

実験後は、こちらもお馴染みとなった研究所・松山博士への質問タイムです。いつもは遠慮がちなご家族から、積極的な質問が相次ぎました。「なぜ洗剤を入れるのか?(回答①)」、「どうしてもブロッコリーでも白いのか?(回答②)」、「アルコール以外でもDNAを取り出せるのか?(回答③)」、「実験で使用した100%のアルコールは市販されているのか?(回答④)」などなど、ここには書ききれないほどの質問が出ました。もしよろしければ皆さんも回答を考えてみてください。

残念ながら実験後の研究所ツアーは行なえませんでした。子供たちに科学の面白さを今年も伝えることができ、満足しています。リピーターも増えていますので、来年も開催できたらと思います。

松山博士への質問に対する回答

- ①細胞膜を壊すため。
- ②野菜の色は色素の違いであり、DNAの色はすべての生物で同じ色だから。
- ③私たちが日常生活で手に入れられるものだと、アルコール以外では取り出せない。
- ④市販されていない。



しげい病院

しげい病院建替え工事を想う

しげい病院 特任部長 土屋正夫

はじめに

しげい病院 60 年の歴史のなかで、建替え工事はおよそですが 20 年前、15 年前、5 年前の 3 回にわたって行われ、現在の完成形となりました。この工事の経過をまず年表で確認した後に、写真で振り返ってみます。

しげい病院建替え工事の年表

①新南館建設工事（1997 年 11 月～1998 年 9 月末）

1. 杭打ち工事（1998 年 1 月 20 日～）
2. 新南館落成記念式典（1998 年 9 月 24 日）
3. 新南館オープン（1998 年 10 月 1 日～現在）

※旧南館（1962 年～）の解体工事（2002 年 1 月 29 日～）

②本館増改築工事（2002 年 9 月～2003 年 12 月 15 日）

1. 本館増築（1 期、2 期）（～2003 年 12 月 15 日）
2. 旧本館改築と結合（3 期）（2004 年 1 月～3 月）
3. 引っ越し（2004 年 3 月 31 日）
4. 外来待合、池の改修工事（2004 年 5 月連休）

③新本館増築工事（2011 年 3 月～2013 年 11 月）

1. 第 1 期工事（2011 年 3 月～2012 年 5 月）
2. 第 2 期工事（2012 年 5 月～2013 年 7 月）
※解体工事：旧透析センター、医局、事務部、外来、8 階建て
※外来診察室、リハビリを仮設、事務部は移動し昆虫館は休館
3. 第 3 期工事（2013 年 7 月～11 月下旬）
旧透析センター管理棟 4 階建てなどを解体しピロティに
※電子カルテの導入（2013 年 12 月～）
※内視鏡エリアの改修

①新南館建設工事（約 20 年前）

建設から約 20 年になる新南館は快適な療養型病床、リハビリ、デイケア、訪問看護などを目的に、新築されました。法務局の東に隣接した古い看護婦寮の跡地を更地にしての建設でした（写真 1）。新南館プロジェクトなる委員会が立ちあげられ、看護部を中心に各部署が参加して検討し、当時としてはかなりアメニティーに気を配られた設計となり、落成記念式典も多くの来賓を招いて華やかに開催されました（写真 2）。しかし、10 数年経過して汚れも目立つため、病室を中心に照明その他リフォームを加えて現在に至っています。

②本館増改築工事（約 15 年前）

しげい病院旧本館は 1970 年に落成し、この時点で既に築後 30 年を経過していました。診療効率が著しく低下し、機能的には病床利用率の強化が困難で、建築物としては 1995 年の阪神淡路大震



写真 1 新南館の杭打ち工事開始の風景。右が法務局。右上が地方裁判所。左上は倉敷中央病院の方向。



写真 2 新南館の完成後、倉敷中央病院から眺めた風景。

災により、かなりのダメージもみられました。そこで、病棟機能向上、検体および生理検査室、放射線部、栄養部の刷新を目的とし、耐震性も念頭に入れて、旧本館の東に隣接して新病棟を増築することになりました。毎週開催された増改築推進委員会では、活発な意見が交わされました。建設指針の主なものとして、①業務効率の改善（動線など）、②病床を100%利用できる設計、③働きやすい就労環境への改善などが目標となりました。

設計・工事の困難な点として、建設予定地にある従来からの厨房の稼働を続けながら、旧南館（写真3～4）を解体、そこに増築予定の一部となる新しい厨房や放射線部を先行して完成させ（第1期工事）、そこに新たな稼働を始めた状態で、その上に重ねて残りの4階建ての病棟などを積み上げる（第2期工事）やり方でした。さらに一方で、旧南館の解体工事の終盤以降の本館増築完成までは、南館への連絡路がすべて断たれる状態で、そのため、1階外來部分に新南館への仮設通路を新たに作ることで、その通路が配膳も通行も行われた唯一の連絡路となった大変な時期がありました。それらを克服して本館増改築完成後（写真5）には、旧本館2～4階部分のリフォームと本館増築部への結合（第3期工事）が行われ、追加工事として、しがい病院のシンボルでもある外來の池の改修工事も行われました。

これら本館増改築完了により、患者さんの透析室や放射線部への搬送、栄養部と病棟食堂への配膳車移動、寝たきりの方の入浴などの動線に著しい改善がみられました。廊下、病室は広く処置がしやすく、スタッフステーションは、各階共通の使いやすい配置となり、さらに旧本館各階との併用もあり、その後の病床利用率改善に大きく貢献しました。

③新本館増築工事（約5年前）

本館増改築工事から9年が経過し、その間は旧本館8階建てが、病室・仮設リハビリ室・職員更衣室、職員食堂・仮設倉庫などとして併用され、病床利用率の改善・経営状態にも大きく貢献しました。しかし築後40年の老朽化は明らかで、耐震性からみても既に建て替えが必要でした。今回も本館増改築の時と同様、動線の改善、病床の機能分化に沿った病床利用の改善を目的として、活発な意見が交わされ、設計が進みました。第1期工事はまず東の旧駐車場部分（写真6）に5階建て



写真3 本館の増改築のため解体される旧南館を旧本館8階の建物から撮影。右奥に倉敷中央病院が見える。手前は新南館への旧連絡通路と現在のリハビリテラスの位置。



写真4 解体される旧南館を東の道路から眺めた写真。酸素供給タンクも見える。



写真5 本館増改築が完成し、旧本館8階の一部も改修され一体化された。



写真6 新本館第1期工事の地鎮祭。新しい本館と旧本館と透析4階。



図1 新本館工事の工事手順を示すイラスト

を建設し、次の第2期工事では旧外来部分や8階病棟を解体、その場所に一部3階建て（受付、外来、リハビリ室、透析室）、一部5階建て（食堂、講義室、本部など）を建設、第3期工事では最後に旧透析室と管理棟と4階を解体し、職員通路や物品搬入のためのピロティー部分を作るという手順でした（図1）。

最初の第1期工事5階建て（写真7）の完成により、新しい透析センター、手術室、4階北病棟、薬剤部、事務部、医局、外来診察室（現在の検体検査室に仮設）リハビリ室（現在のかわせみホールに仮設）、新しい診療録管理室、職員更衣室、職員食堂などが稼働可能となりました。しかし、第2期工事には旧本館（写真8）すべての大規模な解体と建設工事があるため（写真9～11）、患者家族や職員にとって最も不便と苦労のかかる工事となりました。つまり、8階建てを含む旧本館を解体するに当たり、外来診察部門とリハビリ室は移転が必要となり、更に生命線である中央の南北通路も各階すべて断たれることになったためです。そのため第1期工事で完成した新しい5階建ての1階に外来診察室を仮設（写真12）、リハビリ室を同じく5階の講義室（現在のかわせみホール）に仮設（写真13）、更に仮設外来から放射線部や病棟への連絡通路を作成（図2）、また本館の各病棟階でも不規則な南北連絡通路の作成などが必要でした。それら数々の仮設通路は第2期工事の完成まで、長く皆さんの負担・迷惑となっており、1階の廊下ではわざわざ案内誘導のためのカラーテープが必要となる程でした。更に、本来両面開きであった業務用のエレベーターが、東側片面のみとなり、しかも一般と業務との併用になったため、待ち時間が長く不便な状態が続きました。第2期工事が完成し（写真14）工事のための囲いが取り払われ、南北のメイン通路が開通した時には



写真7 新本館第1期工事完成まであと少しの工事中。



写真8 懐かしい旧本館の建物と桜。透析センター・医局・玄関・外来と8階建て。



写真9 旧本館解体工事の始まり。旧南駐車場よりアプローチしている。



写真10 旧本館の解体工事で、8階建ての6階を解体中。



写真11 旧本館解体工事終了。瓦礫はなく、整地されている。



写真12 仮設の総合受付と外来診察室。



写真13 現在のかわせみホールに仮設されたリハビリ室。

エレベーターも復旧し、すべてから解放された様な特別な安堵感を感じました。

病院全体の増改築が完成（図3）することによって、全体が広く明るい雰囲気となり、池も緑もあるしがい病院の印象は、患者さんや家族にとって安心感があり、職員やその後の就職希望者にとっても働き甲斐の気持ちが増す要因になったと想像します。この20年間3回にわたる工事が行われ、私個人としては本館の二つの工事が特に印象的ですが、皆様の協力を必要としたこの工事が、以後のしがい病院の発展に大きく貢献したことは疑いがないと確信しています。この紙面をお借りしまして、関係された皆様に心より感謝致します。

今後も広くて明るく清潔な病院というイメージが続くことを願って稿を終えます。



写真14 新本館の第2期工事完成。左に透析管理棟4階が残っている。



図2 非常に複雑な仮設通路と案内図



図3 新本館第3期工事完成後のイラスト

〒710-0051 倉敷市幸町2-30
TEL086(422)8207

